

門松

- ・お正月にやってくる歳神様が迷わず家に来ていただくための目印となるもの
- ・歳神様が降りてこられた後、宿る依り代(よりしろ)になるもの
- ・一年の幸せ(昔は五穀豊穡)を願うもの
- ・長寿を願うもの

現在の門松は中心の「竹」が目立つが、その本体は名前で見るとおり「松」である。

「松」は冬でも青々とした常緑樹で生命力・長寿の象徴となっている。

また、神を祀る(まつる)という言葉につながる。

松の葉は上を向き、さらに神様を「待つ」という言葉につながる。

「竹」は成長が早く、生命力・繁栄の象徴とされる。

門松の様式には、地方により差がある。

関東では3本組の竹を中心に、周囲に短めの若松を配置し、下部をワラで巻く形態が多い。

関西では3本組の竹を中心に、前面に「葉牡丹(紅白)」後方に長めの若松を添え、下部を竹で巻く。

豪華になると梅老木や南天、熊笹やユズリハなどを添える。

設置期間

12月13日以降にすべきとされる。ただし、12月29日に飾るのは「二重苦」、さらに9の末日出もあるので「苦待つ」に通じるとされ、「苦松」といって忌む。

また、旧暦の大晦日にあたる12月30日や31日に飾るのは「一夜飾り」といって神をおろそかにするということから、それぞれ避けるという風習もある。

松の内

門松がある期間のことを「松の内」といい、伝統的には元日から1月15日までを指し、関西などでは依然15日までのままであるが、近年では関東を中心として7日までとするのが多くなっている

門松の配置

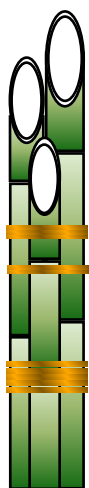


迎飾り

招福の意味

子供を授かりたいという願い

デパートや商家ではお客さんがもっと来て商売繁盛するように人を引き寄せる



出飾り

子供が成長して独り立ちすることを願う

結婚など門出を祝う・願う

病院なら患者さんが早く元気になり退院できることを願う

人を送り出す

内にある災いを外に出す